

## 研究の経過と概要

### 1 東山梨地区 福祉教育研究部会のとりくみ

本地区の福祉教育研究部会は、『学校教育における福祉教育のあり方』を研究主題に設定し、「福祉教育」をどのように扱い、子どもたちに何を学ばせるか、理論研究、福祉施設の見学、実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育というと、障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう、調べたり体験したりする、交流するなどの実践が行われてきた。数年前より、教科や領域にとらわれず、「ともに生きる」ということを基調とし、授業実践してきた。

#### ※ 過去の研究内容

2008年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（菱山小：耳の不自由な人の生活について

牧一小：笛吹荘のお年寄りと交流しよう）

学習会（「福祉と福祉教育のあり方」山梨市社会福祉協議会 小林先生）

2009年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（塩山北小：つくろう！ハッピーライフ【総合】

塩山南小：あなたのためになったことがうれしい 資料『うれしい朝』【道德】）

学習会（「小学校における福祉教育のすすめ方」義務教育課指導主事 深澤先生）

2010年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（日下部小：聴覚障害について考えよう【総合】

松里小：お年寄りも幸せに暮らせる社会について考えよう

～自分たちにできることとは？～【道德】）

施設見学（山梨市 そだち園）

2011年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」6年【総合】

玉宮小：「思いやる心を伝えよう」3年【道德】）

施設見学（山梨市・甲州市 ハロハロー一番館・二番館）

2012年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（松里小：「レッツ・トライ・ボランティア」5年【総合】

後屋敷小：相手の気持ちを考えて 資料『こうえんのおにごっこ』2年【道德】）

学習会（「福祉教育にかかわる学習会」甲州市社会福祉協議会 手塚剛史さん）

2013年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業（三富小：みんないっしょに生きている 4年【総合】

日下部小：「本当のヒーローってなあに。」1年【道德】）

学習会（「福祉に関わる学習会（点字）」山梨市社会福祉協議会 平山純子さん）

### 2 今年度の部会研究テーマ

「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

### 3 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

- 5月 7日（水） 役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定  
5月 21日（水） 実践事例をもとにした学習会（全員）  
6月 4日（水） 研究授業の授業づくり（塩山北小：雨宮）  
8月 4日（月） 研究授業の授業案検討（塩山北小：雨宮）  
学習会「ことばや発達に障害や特性をもつ子どもたちの豊かな  
人間性の育成をめざして」 講師 矢崎 立美先生  
8月 29日（金） 統一授業研究会（塩山北小：雨宮）  
10月 1日（水） 授業づくりのための学習会（全員）  
11月 26日（水） 研究授業の授業づくり（神金小：廣瀬み）  
1月 14日（水） 研究授業の授業案検討（神金小：廣瀬み）  
2月 4日（水） 統一授業研究会（神金小：廣瀬み）  
2月 18日（水） 成果と課題・来年度に向けて

### 4 研究の課題

今年度も、教科の枠や「福祉教育と言えれば障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず、さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は、以下の通りである。

- ①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず、そこで学習した考え方や生き方を、日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。
- ②「福祉」のとらえ方について、「ともに生きる」「みんなのしあわせ」のために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。
- ③立場の違いはあっても、自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである、という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ、研究部会に所属している部員のそれぞれの学校や個人の実践を参考に授業案づくりが行われ、共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

### 5 研究の仲間

◇指導助言者 中村 達也（塩山南小学校）

◇部会員  
藤波 貴（三富小学校）  
雨宮 正（塩山北小学校）  
広瀬 美穂（奥野田小学校）  
三森 明美（神金小学校）  
廣瀬みどり（神金小学校）  
三森 敏彦（祝小学校）  
飯島 典子（松里小学校）  
小河真由美（松里小学校）  
水上かおり（山梨南中学校）

## ◎はじめに

「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調とした本部会の研究を受け、「ちょボラ（ちょっとしたボランティア）」に焦点をあてた実践を行った。「ちょボラ」というと、10年以上前にメディアをきっかけに流行した言葉であるが、身近な人々との関わりの中で、たとえ小さなことでも、相手に必要なことを想像し、自分にできることを進んで行うという考え方は、福祉の基礎であり、普遍のものであると思う。本実践をはじめの一步として、子どもたちが、友達や周りの人々のために何かできる喜びや、互いに助け合って生活する心地よさに気づく中で、自他の存在をかけがえのないものとしてとらえ、「ともに生きる」社会を築こうとする意識を少しずつ広げたり、深めたりして行ってほしいと願っている。

# 第5学年 福祉教育授業案

授業者 雨宮 正

1. **主題名** 「ちょボラ」でみんなハッピーに！  
～自分にできることを見つけて実行しよう～
2. **資料名** 『“ちょボラ”で福祉のまちづくり』（日比野正巳／学習研究社／2004）

## 3. 主題設定の理由

### （1）ねらいとする価値

「ちょっとしたボランティア（ちょボラ）」は、子どもたちにとって気軽に実践できるボランティア活動であり、だからこそ毎日の生活の中で意識を継続させることができる。「困っている人」「助けを必要とする人」のために、さりげなくても自分にできることを見つけて一人ひとりが取り組むことは、福祉社会を構築するための基盤となる態度であろう。「ボランティア」という言葉をきくと、「障害を持った方々との交流」や「福祉施設の訪問」など、自分たちだけの力では実践しづらいものや、一定期間の行事の中で断片的に体験するような活動（イベント）を思い浮かべる子どもも多いが、自分の身の回り、たとえば、毎日とともに過ごしている学級の友達どうしても、必要な考え方であることに目を向けさせたい。そして、「困ったときはおたがいさま」の考え方に基づく共助の意識を身につけさせ、自分と関わるみんなが幸せに暮らせる社会を築けるよう、気づき、考え、具体的な行動に移せるような心の育成を図りたい。ひいては、それが障害者理解や災害支援、環境活動なの、「本格的な」ボランティア活動へと発展したり、思いやりある人間関係づくりの視点から「いじめ」や不正などに立ち向かって正しく解決しようとする行動を起こしたりと、子どもたちが自分自身の人生を幸せにする力となることを願う。

### （2）ねらいに関わる児童の実態および目指す児童像

男子15名、女子25名、計40名の学級である。明るく活発で、さまざまなことに意欲的に取り組もうとする児童が多い。委員会活動や学級の係、当番活動などで、個々の責任が明確

になっている仕事については一生懸命にやりとげようという意識が高く、十分に責任を果たしていない友達がいた場合は、きちんと声をかけながら、姿も多く見られる。

一方で、自由にグループを組む際に孤立してしまう児童がいたり、近くに困っている友達がいてもとくに関心を示そうとせず、何もしない児童が見られたりと、「思いやり」ある人間関係づくりについて支援を続けていく必要性を感じる。実際に、1学期に行った「ちょボラ」について記録する活動の中では、一日の終わりに、「今日、わたし、だれにも何にもしてない」と答える児童も見られた。何日か継続する中で、毎回「えんぴつを拾った」と書いている児童もいた。また、率先にしてみんなのために行動している友達の姿に気づき、感謝の気持ちを持つという習慣も一層身につけていく必要があるように思われる。本学習を通して、友達と助け合い、つながり合うチャンスは身近にいくらでも存在し、それらに気づき、自分にできる具体的な行動を起こすことが大切であると理解させたい。そして、できることもたくさんあることをつかませたい。

1学期の総合的な学習の時間では、「わたしにできるボランティア」という課題で、各自が「募金」や「介護」、「環境保護」などのキーワードを設定し、調査活動およびレポート発表会を行った。また、お年寄りとのふれあいについて発表した児童の考えを発展させ、全員で高齢者疑似体験を実施した。体の動かしづらさや聞こえづらさなどの「困り」を感じ、それに対してどんなことができるのかを実感をもって考えている様子が見られた。お年寄りとの交流については、10月末に開かれる「大先輩とのふれあい集会」で実践できるので、日常的な取組もあわせて意識を継続させ、具体的な交流場面で行動できるようにしていきたい。一方で、自分のまとめたボランティアに関するレポート内容が、あまり日常生活に結びついていない児童も見受けられる。どうしても、どこかのだれか、それも大人の人たちがやるものだと、「ボランティア」を日常生活から切りはなして考えてしまっているのである。そこで、疑似体験で得た「困り」の感覚を、身近な人々を相手とした様々な場面にも広く結び付け、相手の気持ちを慮って行動しようとする態度を育めるよう支援していきたい。

#### 4. 主な学習の流れ

時 期	学習名	具体的な学習内容
1 学期	総合的な学習の時間 「わたしにできるボランティア」	◆ボランティアに関係した内容を調べ、レポート発表会で情報を交流する中で、自分たちにできるボランティアは何かを話し合い、実践につなげる。 ◆調査の内容に即して、体験活動を実施する。 ・高齢者疑似体験
1 学期末	学級活動・課外活動 「ハッピー貯金通帳」	◆毎日の生活の中で見つけた ① 自分がだれかのためにした「ちょボラ」 ② だれかにしてもらった「ちょボラ」 ③ 友達がだれかにしていた「ちょボラ」 のいずれかの観点で記録する。 ◆帰りの会で記録を交流する時間を設ける。
2 学期	学級活動（本時） 「ちょボラ・チャンスを考えよう」	◆ボランティアに従事する方々の思いや「ちょボラ」の体験を交流しあい、今後のボランティア活動への展望を持つ。



## 5. 本時の授業について

### (1) ねらい

ボランティアに従事する方々の話を聞いたり、さまざまな種類の「ちょボラ」があることを考えたりする中で、自分にできそうな「ちょボラ」を見つけ、進んで取り組もうとする意欲を高める。

### (2) 日時

2014年 8月 29日(金) 14:00～14:45

### (3) 場所

塩山北小学校 5年教室

### (4) 展開

過程	学習活動	留意点
導入 8分	<p>1. ボランティアをしている人たちはどんな気持ちで取り組んでいるのか知ろう(ビデオ鑑賞・短講話)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5名のボランティア関係者の方々のお話を通して、               <ol style="list-style-type: none"> <li>「だれかのために役立つことをしたい」という気持ちは共通していること。</li> <li>自分の得意なことや、できそうなことを選んだりしてボランティアしていることを確認する。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>甲州市内でボランティアに従事している方々の「始めたきっかけ」や「実際に活動してみて感じている思い」を映像資料で鑑賞する。</li> </ul>
展開	<p>2. 学習課題を知ろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分ができそうな「ちょボラ」を考えよう!!</p> </div>	
	<p>3. 自分におすすめな「ちょボラ」グループを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「おすすめちょボラ・チャート」を用いて、ペアの友達と自分におすすめな「ちょボラ」の種類を確認する。</li> </ul> <p>4. それぞれのグループに入る具体的な「ちょボラ」の内容を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期や夏休み、2学期はじめに自分がだれかに「してもらってうれしかったちょボラ」について選び、一人数枚短冊に書く。</li> <li>班の中で発表しあうとともに、それが、どのグループに入る「ちょボラ」なのか話し合う。</li> <li>短冊を、黒板に「ちょボラ」のグループごと分類してはる。</li> <li>1つひとつの「ちょボラ」グループの内容について、教師とともに確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布する。</li> <li>短冊に書けない児童がいた場合は、これまでのハッピー貯金の中からもぬき出させる。</li> <li>班をまわり、分類に困っている場合は声かけをする。</li> <li>具体的な場面などを交えながら、</li> </ul>

<p>終 末  5 分</p>	<p>5. 学習感想を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ちょボラ・チャンス表」を参考にしながら、これからどんなちょボラをしていきたいかをふまえて、プリントに学習感想を書く。</li> </ul>	<p><b>評</b>：自分にできそうな「ちょボラ」を考えることができていますか。</p>
---------------------------------	---	---

#### (4) 本時の評価

自分にできそうな「ちょボラ」を考え、実行しようとする気持ちが持てたか。

(ワークシート)

#### 6. 成果と課題

〈成果〉

- 子どもたちに身近な、地域のボランティア体験者や学校用務員の方のお話を聞く中で、「特別なことではなく、自分にできそうなことに取り組めばよい」という思いが確認されたのではないか。
- ボランティアの方のお話の中で、「相手に幸せになってほしい」「自分にできていることをしている」というポイントが自然に出されていた。
- ビデオ編集することにより、効率的に子どもたちに伝えたい部分を見せることができた。
- 「ちょボラ発見チャート」は友達どうしで交流しながら、楽しそうに取り組んでいる様子が見られた。さまざまな「ちょボラ」のチャンスに気づくことができたのではないか。
- 「ちょボラ発見チャート」は広がり
- また、学習感想から、自分があまり取り組んでこなかった種類の「ちょボラ」についても取り組んでみたいという考えの広がりが見られた。
- 小学校の段階から「ちょボラ」に対する意識を高めていくことで、今後の「ほんボラ（本格的なボランティア）」やいじめ防止につながっていくのではないかと思う。



ボランティア活動をしている用務員さんのお話をうかがいました。



ペアで「ちょボラ発見チャート」をしています。あなたにおすすめの「ちょボラ」は？

〈課題〉

- ◆それぞれの種類にあてはまる具体的な「ちょボラ」の内容を出し合う場面では、子どもたちの経験に基づいた出し方であったため、「てつだうちょボラ」や「たすけるちょボラ」など、子どもたちのやりやすいものに偏りが見



られた。具体例は、「何をしたらよいのかな」「どんなことができそうかな」という視点でもよかったのではないかな。

★授業時のワークシートより

わたしにおすすめなのは、

「つくる」ちょボラ  
でした。

◆学習感想

私は、ちょボラ発表するときに私の名前が多く書いていて、とてもうれしかった。これからも名前がでるようにかんばりたい。つくるちょボラでは、トイのポスターとか、ろうかを走るよいのポスターをつくってみたい。

わたしにおすすめなのは、

「集める」ちょボラ  
でした。

◆学習感想

この学習を通して思ったことは、ほくは、集めるちょボラにたどりついたので、ちょっとプリントもあつめられしもにできたから、これをかけあつめてあげれば集めるちょボラができるんじゃないかなと思った。

わたしにおすすめなのは、

「教える」ちょボラ  
でした。

◆学習感想

わたしは、この道徳で、教えるちょボラをおすすめされました。みんないろいろなちょボラをしていることがわかって、すごいと思いました。これからは勉強でわからないことがある友達がいたらわたしが教える「など」あげたいです。

わたしにおすすめなのは、

「集める」ちょボラ  
でした。

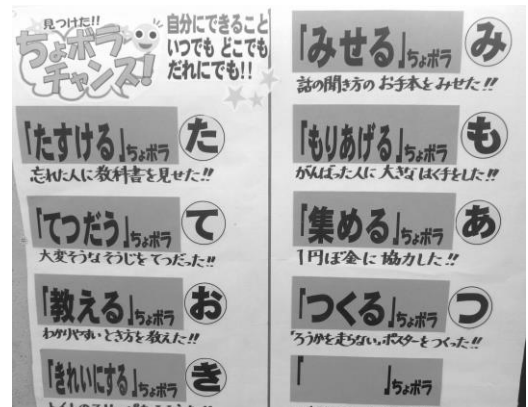
◆学習感想

おとなの人は勇気があるとおっしゃいました。理由は、ほくは一度だけゆうひん局の前頭から血をたいておれているおばあさんかいました。その時は、勇気がなくて、話かけられずかえって、また時がありました。その時のことはおすれたことがありません。なんでたけなをいれた、とおとじいさんをせめてみました。だから、これから

7. 本時以後の学習について

◆学級活動 『いろいろなちょボラにチャレンジしよう!』

- ・本時で確認したそれぞれの「ちょボラ」の種類について、具体的にどんなことができるのか話し合い、例を出し合った。例を参考に、さらに「ちょボラ・チャンス」を広げ、いろいろな種類の「ちょボラ」にチャレンジできるような意識を高めた。





◆ハッピー貯金通帳より

・「こんなこともちょボラなんだよ」という例をあげたことにより、さまざまな場面で何か自分にできることはないかと気を配っている様子が見えやすくなった。1学期は「なんにもやっていない」や「書くことがない」という児童が目立ったが、今では機会をとらえてたくさんの「ちょボラ」が書けるようになってきた。また、少しずついろいろな種類の「ちょボラ」にチャレンジできるようになってきている。

月日	お相手	内容	
9/3		足にけがをした。おしんをさかした。	①
9/4		習字のとき、おしんが新聞紙をわすれたので、新聞紙を一まいあげた。	②
9/5		わたしのマーカーをかした。	③
9/8		水とうをひろった。	④
9/9		えんぴつをかした。	⑤
9/10		スリッパをそろえた。	⑥
9/11		つくえをもとめてくれた。	⑦
9/12		ふでばしをひろった。	⑧
9/16		給食セットをもとめてくれた。	⑨
9/17		(買)の時間、ピントをあてた。	⑩
9/30		えんぴつをひろってくれた。	⑪

月日	お相手	内容	
8/29	おしん	ペンをとってあげた。	⑫
9/1	おしん	手さげをとりに行き、あげた。	⑬
9/9	おしん	のりをかしてあげた。	⑭
9/9	おしん	ふせんをくれた。	⑮
9/10	おしん	リョウめんテープのゴミをひろっていた。	⑯
9/10	おしん	リョウめんテープのマスコットをくれた(チッコリ)。	⑰
9/11	おしん	花紙をさいにまできれいにかたづけしていた。	⑱
9/11	おしん	けていた。	⑲
9/12	おしん	プリントをひろってくれた。	㉑
9/12	おしん	ふせんをきれいにわらっていた。	㉒
9/17	おしん	さんずうをおしえてくれた(ピントを)。	㉓

月日	お相手	内容	
		てあげた。	⑳
9/9		係の仕事をゆずった。	㉔
9/17		えんぴつけずり機をかしてくれた。	㉕
9/17		トイレのスリッパをそろえた。	㉖
9/17		算数の問題をおしえてくれた。	㉗
9/30		名前ペンをかして」と言われたから、かしてあげた。	㉘
9/30		タオルがおちたら、ひろってくれた。	㉙
9/30		しゅうせいペンをかしてくれた。	㉚
9/30		スローガンのボードを、かいたボードに、もっててくれた。	㉛

・はじめは「自分がだれかにしたちょボラ」や「だれかが自分にしてくれたちょボラ」の記述が多かったが、少しずつ、自分以外の友達どうしのちょボラにも目が向く子どもたちが増えてきた。

・小さなことではあるが、5年生の使用するトイレのスリッパがなかなかそろえられない実態があった。本実践の影響か定かではないが、今学期はいつでもスリッパがそろえられている。「あたりまえ」のことではあるが、みんなが気持ちよい生活を送るためにどうしたらよいかという意識が高まってきたように感じている。

月日	お相手	内容	
10/4		おしんが、でん車の中で、まどを閉めておいてくれた。	㉜
10月中		教室で、おしんが、少+よかした。おしんが、そうさんそうじを、てつづけていた。	㉝
9月おわり		えんぴつけずり機をかしてくれた。	㉞
10月おわり		えんぴつけずり機をかしてくれた。	㉟
10/8		しゅうせいきをかしてくれた。	㊱
10/8		1年生に、やさしく、あそんでくれた。	㊲
10/		パーカーを、ひろってくれた。	㊳

